

かわかみ通信

2019年6月
水無月号

Vol. 30、2019年3月弥生号からの続きです。

⑦宇佐八幡宮弥勤寺建立縁起（「承和縁起」844年）によれば568年に応神天皇の霊が宇佐郡馬城嶺に現れたとあるが、これは仏教伝来の話に影響されたもの（辛嶋氏、大神氏の伝承）で、実際には八幡神＝応神天皇となったのは7～8世紀ではないか。

⑧奴国が漢より「漢倭奴国王」の金印を受けたのは57年。また239年邪馬台国卑弥呼が「親魏倭王」として金印紫綬を受けている。卑弥呼は女性シャーマン「鬼道」をよくすると中国の史書に書かれている。鬼道とは中国民衆信仰である道教の影響を強く受けている。中野氏は邪馬台国が九州にあったと考えており、邪馬台国卑弥呼の政治的宗教的影響が九州北部に多くあり（親魏倭王）、そのために大神氏の掲げた八幡神＝応神神という信仰（シャーマニズム）が受け入れられる素地ができていたのではないかとしている。応神天皇は崩御後332年にわたり世界各国で千変万化の修業をして、宇佐郡馬城嶺に現れた。これはシャーマニズム的な説話・伝承である。（ちなみに現代社会においても様々な道教的影响は私たちの生活の中に染み付いています。「占い」「のろい」や、菅原道真・後鳥羽上皇等に代表される「たたり」など。今は菅原道真是学問の神様ですが、以前はたたる神だったのです）



漢より受けた「金印」



⑧奴国が漢より「漢倭奴国王」の金印を受けたのは57年。また239年邪馬台国卑弥呼が「親魏倭王」として金印紫綬を受けている。卑弥呼は女性シャーマン「鬼道」をよくすると中国の史書に書かれている。鬼道とは中国民衆信仰である道教の影響を強く受けている。中野氏は邪馬台国が九州にあったと考えており、邪馬台国卑弥呼の政治的宗教的影響が九州北部に多くあり（親魏倭王）、そのために大神氏の掲げた八幡神＝応神神という信仰（シャーマニズム）が受け入れられる素地ができていたのではないかとしている。応神天皇は崩御後332年にわたり世界各国で千変万化の修業をして、宇佐郡馬城嶺に現れた。これはシャーマニズム的な説話・伝承である。（ちなみに現代社会においても様々な道教的影响は私たちの生活の中に染み付いています。「占い」「のろい」や、菅原道真・後鳥羽上皇等に代表される「たたり」など。今は菅原道真是学問の神様ですが、以前はたたる神だったのです）

⑨応神＝神功信仰は神功皇后の三韓征伐神話と関連して生まれた。（征伐後に生まれた応神天皇はこの戦いには参加していない）この神話は九州日本海沿岸を中心とした地域に濃厚に広くみられる。しかし、八幡神はその地域から離れた宇佐で生まれた。（何故神宮皇后ではなく応神天皇が八幡神か？）とりあえずこれまで色々中野氏の本から学んで理解できたことを列挙しましたが、よく分らないことばかりです。

- a) そもそも宇佐の神、比咩大神はどういう神なのか？ 宇佐氏の氏神？
- b) 辛嶋氏のもたらした新羅仏教とは？ なぜ宇佐はそれを受け入れた？
- c) なぜ八幡神は応神天皇なのか？ ⑧の神話からすれば神功皇后でよいのではないか？（神功皇后三韓征伐の時、対馬にて八本の幡を掲げて祈った、との伝承が対馬に残っている）
- d) 三輪山の大神神社は大物主命を祀っている神社。

その大神神社と関係あるであろう大神氏がなぜ八幡神＝応神天皇としたのか？ 天皇霊ということであれば国内的には応神より10代崇神天皇の方がふさわしいような気がするが？



奈良県桜井市にある大神神社拝殿

あるいは初代神武天皇でも…？

中田力先生のいう初代～9代、10代～14代、15代～の王朝交代説。そうすれば八幡信仰を引っさげて宇佐に入った大神氏が15代応神天皇を天皇霊としてかかげるのも理解できるか？

大神氏＝大神比義（おおみわなみよし）は名神天皇崩御後300年以上後の時代の人で当然応神朝に関係がある人物と考えられる。

キリスト教の宣教師が異教の地に入り、その信仰を広め、その後あるいは同時に政治権力が入り征服をしたという歴史があります。日本でも宗教と政治の関係で同様なことがあったのでしょうか？ 大神氏は畿内の政治権力拡張の先兵として、あるいはその力を背景に宇佐に入ったのでしょうか？ 畿内大和の南九州（薩摩・大隈・日向）隼人征伐（720年）の拠点は宇佐であったことは間違いありませんが…。

続きはいつのことになるやら…。また様々な疑問が解決し、少しまとまったらまた報告します。

川上医院 院長 川上 究



卑弥呼の自画像（想像図）

【参考文献】

「八幡信仰史の研究」	中野幡能 著
「日本古代史を科学する」	中田 力 著
「古代日本 誕生の謎」	武光 誠 著
「倭の神々と邪馬台国」	宮島正人 著

Qちゃんが行く

またまたまたの

奮闘記 第十一弾

＼＼＼＼＼＼＼＼

【黒河越えの巻】

12月23日、師走の押し詰まった日曜日。「行くぞ!」「何処へ?」「何処へ行く?」「以前言うとつた黒河を山越えて滋賀県に行く古道へ行く」とのことです。車を走らせる。

とこのこと、今日は「黒河越え」に向かう。黒河越えとは古代の駅といわれる滋賀県の「鞆結(ともゆい)駅」から敦賀の「松原駅」を直線的に最短距離で結ぶ古代の国道(白谷越え)があったことで知られる。

京や奈良の都から北陸へ行くには敦賀は重要な結節点。今も昔も変わらず交通の要衝である。

この「ヨタヨタ歩き」の奮闘記でも「木の芽峠」「深坂峠」など地元の古道を紹介してきたが、今回もその一つ。「いざ出発!」12月にしては寒くもなく、えらいエエ天気だ。何故かこのヨタヨタ歩きの時はいつもいい天気だ。「そりやそうだ、天気の悪い時は歩こうとは言わんもんな(笑)」

市内から車を走らせると程なく山地区、黒河川の上流に到着。ここから市街を眺望。眼下に



「オツ」と冬季通行止めになっている。急遽きびすを返す



黒河川上流の山地区からの市街地。素晴らしい眺望が広がる

「舞鶴若狭自動車道」その向こうに「日本海」絶景かな絶景かな。ここから山を登る。先を進めると川を渡る橋に差し掛かる。「アカン!」「通行止めや」見るとチェーンが。「なんや通行禁止かいな」よく見ると、冬季

間は通行禁止とある。「ほんならあっち側へ行く」とのこと。滋賀県側に急遽変更。「こちらがダメなら、あちらがあるさ」「鞆結神社」を目指す。約40分で鞆結駅の比定地とされる神社に到着。参拝を済まし、記念撮影。さすが歴史のある古社、簡素な中にも威厳に満ちている。ここから山を越えて敦賀の黒河、松原駅に向かったのである。Qちゃん感慨にふける。



古代鞆結駅の比定地とされる「鞆結神社」

ここから先も同じく冬季通行止めなので戻すことにする。走っていると、Qちゃん急に「〇〇の墓や!」と叫ぶ。「何それ?」「誰の墓や?」「在原業平の墓がここにあったのか」「誰?」

在原業平(ありわらのなりひら)とは平安時代の恋愛小説『伊勢物語』のモデルではないかといわれる人物で、「見た目はイケメンでスタイルも良いけれど、行動は自由奔放で好き勝手に生きている。頭はあまり良



狩野探幽作「三十六歌仙額」の在原業平



在原業平の墓の案内板

くないけど、良い歌は多く作っている」と紹介している。これは朝廷も認めたプレイボーイ、美男子の代名詞といわれた。その業平が晩年を過ごし、今でも墓が存在するという。マキノ町在原集落に伝説が伝わっている。案内板のある小道を山に向かうとすぐに「在原業平の墓」との看板が立つ。すると、すぐに墓らしい石像が見える。「へえ、これが業平の墓か?」Qちゃん感動に震えているかといえ、あまりそうでもない。でも、こんな辺りなどところにそんな伝説があったとは、貴重で良い発見であった。



業平の墓と伝説のある石像。ちょっと寂しげな印象

帰り際、ちようどお腹もすいた頃、なんとも素朴なソバ屋を発見。「ここがええで!」即座に決定。入ってみると、これまた手作り感満載の店舗。かろう



業平の墓近くにある「本格手打業平そば」と書かれた手作り看板

じて在り合わせのテーブルにドラム缶ストーブ。一組先客がいる。「とりあえずソバ」「山菜の天ぷら」それにジビエ料理がお勧めとのこと。「シカ肉」を追加。「お待たせしました」見るや否や、「なんじゃこれは」誰が作ったのか、よく言えば「素朴」悪く言えば、今まで見たことのない素人以前の出来栄のソバ。かたい、まずい、見た目もイマイチ。Qちゃん「こんなソバ初めてやな」これを商売で出すとは? 山菜といっても、そこらへんの道端にある葉っぱを今摘んできたような代物。シカ肉は思ったより柔らかくおいしかった。まあ、強烈に印象に残る昼食だった。あまり人にはお勧めはできないかも。心地よい疲れとともに家路に着いた。(河)

【発行】令和元年6月10日(月) かわかみ通信 Vol. 33 (水無月号)

医療法人 川上医院

福井県敦賀市松原町1-39

TEL: 0770-22-0977